

第3学年 国語 学習構想案

日 時 令和6年11月27日(水)第5校時
場 所 3年教室
指導者 教諭 ○○ ○

I 単元構想

単元名	すがたをかえる大豆 食べ物のひみつ教えます		
単元の目標	(1) 比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し、使うことができる。[知識及び技能] (2) イ (2) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。[知識及び技能] (3) オ (3) 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。[思考力・判断力・表現力等] B (1) イ (4) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。[思考力・判断力・表現力等] C (1) ウ (5) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使っている。 ②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。	①目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
大切な言葉や文を見つけながら読んだり、文章を書いたりするときに、構成を意識して分かりやすく表現し、伝え合う喜びを感じる学園生			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
自分たちの「食べ物ひみつ図かん」を作って、学園生に読んでもらおう。		段落相互の関係に着目し、筆者の説明の工夫を生かした文章を書くことを通して、言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画（12時間取扱い 本時6 / 12）			
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	評価の観点等
第1次	1	①教科書P43を見て、大豆について知っていることや題名から考えたことを話す。 ②教材文を読み、感想を伝え合う。	★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」 [態①] 文章のおおまかな内容を捉えるとともに、単元全体の目標を理解し、学習の見通しをもっている。【発言・記述】 [態①] すがたをかえる大豆に興味をもち、感想をもっている。
		第2次	③「初め」「中」「終わり」に分け、文章の組み立てを確かめる。 ④「中」の具体的な例を整理する。
⑤「初め」の第1・2段落の内容（大豆とダイズ）の違いを読み取り、それぞれの段落の役割を理解する。 ⑥「中」の事例が「工夫」で整理されていることを理解し、第3・4段落の事例の内容を読み取る。	★[態①] 目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけ、学習の見通しをもって、筆者の説明のしかたの工夫を見つけようとしている。【発言・記述】		
⑦第5段落の事例の内容を読み取る。	[態①] すがたをかえる大豆に興味をもち、感想をもっている。		
⑧第6・7段落の事例の内容を読み取る。 ⑨「これらのほかに」の事例は、大豆でなくダイズであることを理解する。 ⑩第8段落の「まとめ」を読み取る。	[態①] 大豆の工夫について関心を高めている。		
⑪どのような順序で例が挙げられているのかを考える。	★[思判表②] 事例の順序に筆者の意図があることを理解している。【発言・記述】		
第3次	7・8	⑫「問いをもとう」「もくひょう」を基にこれからの学習の見通しをもつ。 ⑬取り上げる材料を決め、調べたことを表などに整理する。	★[知技①] 比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し、使っている。【観察・記述】 ★[知技②] 幅広く読書に親しみ、読書が、必要

	9	⑭文章の組み立てと、具体的な例の書き方や順序を考える。	な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。【観察・記述】 ★[思判表①]「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。【記述・発言】 ★[態①]粘り強く書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。【発言・記述】
	10 ・ 11	⑮考えた組み立てに沿って、説明する文章を書く。	
第4次	12	⑯友達と感想を伝え合う。 ⑰「ふりかえろう」を基に単元の学習を振り返る。	[態①]文章を読み合い、友達の文章のよいところを見つけるとともに、自分の文章のよいところを見つけようとしている。【発言・観察】

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)				
小学校学習指導要領第3学年 [知識及び技能] (2)イ「比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと」(3)エ「読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること」 [思考力, 判断力, 表現力等] B(1)イ「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること」C(1)ウ「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」				
教材・題材の価値				
本単元は、読むことの教材である「姿をかえる大豆」で、段落相互の関係や考えとそれを支える事例との関係について学習し、書くことの教材である「食べ物のひみつ教えます」で調べたり、書いたりする学習につなげていくことがねらいである。大豆は、身の回りにあふれており、子どもたちにとって身近な題材でありながら、加工品は見ただけでは分かりにくいいため、意外性をもって児童が興味深く読み進められるものと言える。また、「初め」「中」「終わり」に分けられ、「中」では大豆をおいしく食べるための工夫の5つの事例が接続語を使って簡単なものから複雑なものへと順序だてて整理されている。また、写真資料が効果的に使われている。そのため、段落相互の関係について理解を深めることができる教材と言える。				
本単元における系統				
2年 馬のおもちゃの作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう	3年 すがたをかえる大豆 食べ物のひみつ教えます	4年 未来につなぐ工芸品 工芸品のみりよくを伝えよう		
学園生の実態 (単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況				
調査内容 (R6 標準学力調査正答率)				
事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えているか。	自校	目標値	全国	
文章の中の重要な語を考えて選び出しているか。	50.0	70.0	61.4	
事柄の順序に沿って簡単な構成を考えているか。	83.3	70.0	78.8	
情報と情報との関係について理解し、語と語や文と文との続き方に注意しながら、文章を書いているか。	75.0	60.0	63.5	
	33.3	40.0	27.6	
■本単元の学習に関する意識の状況 (実施人数13人)				
調査内容 (事前アンケート)	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
国語は好きですか。	3人	1人	6人	3人
説明文を読むのは好きですか。	3人	1人	4人	5人
自分の考えを書くことは好きですか。	2人	4人	4人	2人
説明文を読むときに、書いてあることの順番を考え、内容を理解していますか。	0人	3人	6人	4人
■考察 本学級の児童は、国語の学習に意欲的に学習に取り組むことができている。これまで学習してきた「こまを楽しむ」では、「初め」には「問い」の文があり、「中」に問いの「答え」が書いてあることや、「終わり」には文章全体のまとめが書いてあることなど、文章全体の組み立てを捉えて読む学習をしてきた。「中」の部分の学習では、段落ごとのまとまりに気をつけて、内容を読み取ることができる児童が増えてきた。 令和6年度標準学力調査国語の結果では、全国平均正答率72.8に対し、79.2と高くなっている。しかし問題別に正答率を見ていくと、「事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」が、全国平均正答率61.4に対し、50.0と11.4ポイント低い。また、「情報と情報との関係について理解し、語				

と語や文と文との続き方に注意しながら文章を書くこと」が、全国平均正答率 27.6 に対し、33.3 と 5.7 ポイント高くなっているが、正答率としては一番低く、書くことが苦手な児童が多いことが分かる。

事前アンケートでは、国語が好きだと答える児童は 3 人で、「あまり好きではない」「きらい」だと答える児童が 9 人と全体的に国語が苦手な児童が多くいる。また、説明文を読むことに対して「あまり好きではない」「きらい」だと答える児童が 9 人と多くいる。国語や説明文が嫌いな理由としては、「長い文章を読むのが苦手」「文章を読むのが嫌い」「出てくる言葉の意味が分からない」「自分の考えを伝えることが苦手」が多かった。また、説明文を読むときに順序を意識しながら、内容を理解している児童は 3 人と、10 人は書かれている順序を意識していないことが分かった。

3 指導に当たっての留意点 (校内研究)

主体的に学習に取り組み、考えを深める子どもの育成

【柱①】実態分析をもとにした授業改善

実態分析

R6 の標準学力調査と事前アンケートの分析から、文章を読むときに、事柄の順序や注意しながら、内容を理解することに課題があることが分かる。また、長い文章を読むことが苦手な児童が多く、言葉に着目して読み、内容を理解することに課題がある。そのため、中心となる語や文に着目したり、段落相互の関係に着目したりして文章を読み取り情報を取り出すことができるよう授業改善が必要である。

個人テーマ「情報を読み取る力と自分の考えを伝え合う力の育成」

～段落相互の関係に着目しながら、書かれていることを読み取り、自分の考えを伝えることができる授業～

研究授業

グループテーマ「情報を取り出す力」

【学年・教科】3 年生 国語

【単元名】「すがたをかえる大豆」

「食べ物のひみつ教えます」

【本時の目標】「中」の段落相互の関係や叙述に着目し、中心となる語や文を見つけながら、事例の順序の工夫を述べるができる。

本時のポイント

課題解決に向けて、それぞれの段落の中心となる言葉に着目したり、段落を比べたりしながら、自分の言葉で説明し、筆者の意図を理解する。

【人権が尊重される授業づくりの視点から】

※発表の際に、自分の考えと比べながら友達のを聞くことで、違う意見を受け止められるようにする。

※支持的風土を醸成することで、自分の考えを伝え合えるようにする。

4 本時の学習 (紙面の関係上、目標と展開は次のページに掲載する)

【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

○デジタル教科書で、本文を提示する。

【板書計画】

Ⓜ 筆者は、()で、読む人が分かりやすい文章にしている。

Ⓜ どうしてこの順番になっているのかな？

- 大豆の形がかわっているから。
- 大豆の形からだんだんかわっていつているから。
- 調理の時間がかからないものから、かかるもののがじゅん番になっていくから。
- 作る時間がかからないものから、かかるじゅん番になっているから。

すがたをかえる大豆

Ⓜ 筆者はどうして、このような「れい」の並び方にしたのか考えよう。

5 本時の展開 (6/12)

(1) 目標

「中」の段落相互の関係や叙述に着目し、中心となる語や文を見つけながら、事例の順序の工夫を述べることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	10分	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確かめる。(う)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【めあて】筆者は、どうしてこのような「れい」の並べ方にしたのか、考えよう。</p> </div> <p>音読する。</p> <p>3 課題解決の見通しをもつ。 ◇おいしく食べるくふうがくわしく書いてある。 ◇食品の名前が書いてある。 ◇作り方が書いてある。</p>	<p>○前時までの学習の流れを振り返り、本時の課題を確認する。</p> <p>○順序を意識させるために段落をばらばらにする。</p> <p>○「中」の5つの事例を入れ替えて提示することで、筆者がどんな順序の工夫をしたのか知りたいという課題意識をもたせる。</p> <p>○前時の学習を想起させ、「中」に書かれていたことを確認する。</p>
展開	25分	<p>4 事例の順番を考え、筆者の説明の仕方について話し合う。</p> <p>①自分で考える。5分(ぶ) <順序について考える視点> ・大豆の形 ・おいしく食べる工夫(作り方) ・時間</p> <p>◇みんなが知っている順番にしたと思う。 ◇形がだんだん変わっている。 ◇作り方がだんだん難しくなっている。 ◇時間がかかる順番だと思う。 ◇つなぎ言葉で順番が決まると思う。 ◇つなぎ言葉だけでは、決められない。</p> <p>②グループで話し合う。5分(や) ◇形が残っている順番だと思う。 ◇みんなが知っている順番だと思う。 ◇手間がかからない順番だと思う。 ◇どんどん作り方の時間が増えている。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【期待される学びの姿】</p> <p>「中」の段落相互の関係や叙述に着目して、自分の考えを説明している。</p> </div> <p>③全体で発表 15分</p>	<p>○これまでのワークシートを並び替えて、事例の順序について考えをもたせる。</p> <p>○写真を活用し、食べ物や大豆の形が変わっていく様子が視覚的にとらえやすいようにする。</p> <p>○児童の発言をもとに、順序について考える視点となる言葉を板書する。</p> <p>○根拠となる言葉や文を見つけ、自分の考えとその理由をワークシートに書く。</p> <p>○つなぎ言葉で並び替えた児童がいた場合は、5段落、6段落は、つなぎ言葉だけでは、判断できないことを確認する。</p> <p>【到達していない児童への手立て】</p> <p>○写真を活用して、食べ物や大豆の形の変化に気付けるようにする。</p> <p>○順序について考える視点を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【具体の評価規準】(思考・判断・表現)</p> <p>「中」の段落相互の関係や叙述に着目し、中心となる語や文を見つけながら、事例の順序の工夫を述べている。</p> <p>【発言・ワークシート】</p> </div>
終末	10分	<p>5 本時のまとめをする。(ま)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【まとめ】</p> <p>筆者は、(・作る手間がかからないものからならべること・時間がかからないものからならべること)で、読む人が分かりやすい文章にしている。</p> </div> <p>6 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>○児童から出された考えをまとめて板書し、まとめや振り返りに生かせるようにする。</p>